

令和5年度第2回益田市自転車活用推進委員会 議事録

【開催日時・場所】

令和6年2月19日（月） 14：00～15：30

益田市立市民学習センター 203

【議事次第】

1. 開会

2. 議題

(1)益田市自転車活用推進計画の進捗管理について

※重点施策のうち短期目標について

3. その他

【配布資料】

資料1 益田市自転車活用推進計画施策調査票

【出席者名簿】

推進委員					
No.	所 属		職 名	氏 名	出欠
1	公立大学法人島根県立大学		准 教 授	松 田 善 臣	○
2	島根県自転車競技連盟		理 事	永 井 伸 次	○
3	サイクルライフナビゲーター			絹 代	○
4	益田市教育委員会		委 員	原 田 笑	○
5	島根県在宅保健師等の会「ぼたんの会」		益 田 地 区 幹 事	長 野 知 恵 子	欠 席
6	益田市身体障害者福祉協会		会 長	野 村 長 典	○
7	有限会社森谷		代 表 取 締 役	森 谷 典 子	○
8	益田市連合自治会長会		会 長	澤 江 佑 三	○
9	益田サイクリングサークル			村 川 修	○
10	一般社団法人益田市観光協会		事 務 局 長	仲 田 千 恵 理	欠 席
11	益田警察署 交通課		課 長	内 田 貴 司	○
12	国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所		副 所 長	安 部 正 和	○
13	島根県益田県土整備事務所 維持管理部管理第一課		課 長	安 田 修 二	○
事務局					
No.	所 属		職 名	氏 名	出欠
1	〃	観光交流課	課 長	板 井 泰 紀	○
2	〃	〃	主 任 主 事	池 田 尚	○

【議事要旨】

自転車活用推進委員会規約第5条により、会長が議事進行

○議題1 益田市自転車活用推進計画の進捗管理について

①益田市自転車活用推進計画の進捗管理について（資料1参照）

重点施策のうち短期施策になっている10施策について、事務局より実施内容を説明。

【施策番号11 高津川河川管理道等の利活用による新たなサイクリングコースの検討・環境整備について】

委員 : 自転車活用推進計画の施策になっている健康教室の開催を、高津川かわまちづくりで整備される拠点で行うなど、益田市自転車活用推進委員会と益田市高津川かわまちづくり利活用・維持管理推進協議会はぜひタイアップして事業を行ってほしい。

事務局 : 高津川かわまちづくりに係る事業実施に向けて、ぜひ益田市自転車活用推進委員会の委員の皆様にもご意見をいただきながら進めていきたい。

【施策番号13-1 初心者から参加できる自転車教室の開催について】

委員 : 教育委員会で教員の働き方改革が進められている中で、教員や学校に子供たちのために何かをしていただくことが難しくなっていることは認識している。交通安全子供自転車島根県大会は今年度以降出場を見合わせるということであれば、個別で各家庭に対応してもらい、子供が参加したいと言った場合には参加できるのか、そのような案内が各家庭にされているのか伺いたい。

事務局 : 実際に各ご家庭に案内がされているのか、また交通安全子供自転車島根県大会に学校単位ではなく、個人参加が可能か否かは把握していない。確認したい。

事務局 : 大会に出場するという目標を見直して、子供向けの自転車安全教室の開催をPTA等で行ってもらい、指導は益田警察署の方に行ってもらおう等、違う方法を検討しても良いと考えている。

委員 : 前回ほかの委員の方から、この大会自体が非常に現実離れしているという話があり、私もYouTubeで確認したところ、確かにこれを実際の道路で行ったら逆に危ないのではないかと感じた。取組の主な目的はルールを身につけて安全に自転車に楽しむことなので、大会出場にこだわる必要はない。

委員 : 前回大会について発言した。この大会は現実離れしており、極限に近いと感じている。例えば、発進する前に「発信します！」と叫ぶ等の威勢の良さを求められたり、手信号はコーナーを曲がりきるまで出し続けなければならない。下りのコーナーでこのようなことをしていたら、大事故になりかねないし、そもそも左に曲がる際は右手を直角に曲げるが、それを左に曲がると認識しているのは、日本のみ。世界では曲がる方の手を使用する。

現在、警察庁関係の委員を拝命しており、令和8年度から大きく制度の見直しが行われ、目的に合わせて自転車のルールを実際に守れるものに変えていく、プラス誰もが理解できるものに変えていくことになっている。また、自転車安全教室をそれぞれの年代に合わせた内容での教え方にして、しっかりと効果測定をし、狙った効果が得られるものに変えていこうという動きが、来年度から検討が始まる。そうなってくると恐らくこの安全大会はなくなる。

益田は日本でも非常にレアな、小学校にいる間に4回以上自転車の安全教室を受けられる町。私の住んでいる横浜は6年間、1回あるかないかなので、そういう意味ではもうトップランナーに近いところにいる。ぜひその効果が出る、目的をしっかり再現できる内容に変えていただき、子供たちに習得する場を与えてほしい。また、今の世代が無理でも、次の世代がちゃんと道路をシェアして使えるようにという目的、既に全国的に変わってきているので、ぜひ益田が効果が出るものにシフトしてモデル地区として成長していただけたらいいかなと思う。

委員 : 警察では取り組みはないか。

委員 : 自転車の関係でいうと、学校からの要請で定期的に教室を行っている。自転車は子供たちに持ってきてもらい、ヘルメットを準備し、指導を行っている。交通安全子供自転車島根県大会の指導も行っているが、確かにやや現実離れしているかもしれない。

委員 : ぜひ労力を良い方向に使ってほしい。

委員 : 子供たちが安全に自転車に乗り、愛好するためには、学校にお願いするだけでなく、地域のことは地域主体で行うことが大切。例えば公民館単位で、地元の子どもをどう育てていくかという自主的な計画を作り、警察の方と一緒にあってどのようなことを指導するか等検討してもらいたいと思う。モデル地区を作っても良い。子どもたちを育成するなかで高齢者も自転車に対する意識が高まる。学校の先生はそれを支えたり、支援する程度に関わってもらえ

ば良いと考える。

委員 : R6 の目標数は「6 校 (累計)」との記載があるが、R1～R6 の累計を記載するのではなく、R6 だけの目標数を記載するべきではないか。また、計画の P99 には、自転車教室の回数を R6 年度に 4 回開催するという目標なのに、施策番号 13-1、13-2 どちらにも 4 回という数字が出てこないのはどういう意味か。

事務局 : 累計での記載については修正したい。計画 P99 の 4 回は施策 13-1 や 13-2 のシートに記載の内容に限らず、市全体で 4 回実施するという意味である。

【施策番号 13-2 初心者から参加できる自転車教室の開催について】

委員 : 実施主催者が市民団体、NPO 法人、自治組織、企業等となっているが、実際に NPO 法人等の中に、そのような活動をされている団体があるのかを伺いたい。

事務局 : 具体的な団体数までは把握できていないが、これまでもスポーツ自転車の体験教室を連携して行ってきた NPO 法人が市内におられたり、3 月に公民館と連携して交通安全教室を行う予定の地域自治組織があると伺っている。

【施策番号 14-1 自転車による健康教室の開催について】

質疑なし

【施策番号 14-2 自転車による健康教室の開催について】

質疑なし

【施策番号 19 手荷物搬送サービスについて】

委員 : 実績がなくサービス中止になったにも関わらず、A 評価は納得がいかない。残念ながらサービス中止になったため C であれば納得がいく。

委員 : 先ほど事務局からの説明で、実際にサービスを行ったからこそ分かったこともあったという説明もあった。間をとって、B 評価でも良いのではないか。

事務局 : B 評価に修正したい。

委員 : そうであれば、評価理由をもう少し前向きな内容に変更すべき。

事務局 : 評価理由の記載を改めたい。

委員 : 手荷物搬送サービスは、サイクリストが最も切望するサービスの一つ。もしサービスを継続することで、実績がなくてもお金が発生する等がないのであれば、ぜひ再開してほしい。実績がないのは、広報の方法だと思う。求めている人にその情報が届くように、例えば空港のウェブサイトにも旅行の計画をする人は空港のウェブサイトは見ない。自転車の旅を広報するのに合わせて PR するとか、観光協会と一緒に楽しむためのプランとして PR する等、切り口を変えて広報してほしい。このサービスができるのは強みになる。

事務局 : 実施主体事業者を確認し、再開を依頼したい。

【施策番号 20 ガイドを兼ねたアテンドライダーの養成と活用の検討】

委員 : 自転車サイクルツーリズムガイドが少ない中で、良い取り組みだと思うが、どういう方がその指導に当たっているのか確認したい。最近悪質なガイドも増えている。

事務局 : 広島の実業者に委託し、ツアーの造成や実施時のポイント等をレクチャーする座学と、日本遺産を自転車で巡り、各スポットにおいて紹介ポイントの伝え方や記念写真の撮影方法、移動時の注意点などを解説するサイクリングガイド体験を行った。

事務局 : 津和野町でサイクリングツアーを事業として行っている方にアドバイザーとして関わっていただいた。来年度よりしっかりとルール等含めて養成講座を行っていく。

委員 : ホームページを確認すると有資格者ではないようだ。プロだとうたっている方でも、実際にはそのレベルに至っていない方が多い現状。判断を間違えれば大きな事故につながりかねずトラブルがあってからでは遅い。責任は実施主体等に求められる。来年度も動きがあるのであれば、せめてなにかしらの自転車に関連する資格保持者に講師を依頼すべき。

事務局 : 来年度事業実施する際はそうしたい。

【施策番号 21 地域資源を生かした体験・交流型プログラム・ツアーの考案】

委員 : チェアリング×サイクリングはすでに商品販売しているのか。販売されているのであれば、何人の受入れがあったのか開示してほしい。

事務局 : なかなか申し込みがないと伺っている。観光協会に確認し、後日報告したい。

【施策番号 27 サイクリングマップの改訂】

質疑なし

【施策番号 28 首都圏・関西圏からのサイクリストの誘客 PR 活動の推進】

委員 : どのような形で何名にアンケートを行い、何人が知っているかと答えたのか教えてほしい。

委員 : 先ほど事務局からの説明で 216 名から回答があったとの説明があった。アンケートの実施方法について、説明をお願いしたい。

事務局 : 今日の資料に、3 月に出展予定のサイクルモード大阪のチラシを添付している。展示会の中で「ジテンシャ×旅フェア」というコーナーがあり、そこに自治体等が旅の提案等をしており、そこで益田市のブースを構えた。ふらっと来られたお客様に対して、タブレット等でアンケートに回答していただき、回答していただいた方には益田市の温泉の素をプレゼントした。調査結果は後日共有させていただきたい。

【施策番号 29 インフルエンサーによるサイクリングツアーの実施】

質疑なし

【施策番号 30 広域連携による一体的な情報発信】

質疑なし

②その他

【施策 1、2 関連】

委員 : 自転車ネットワーク計画の策定が完了し、工事に一部着手しているとの記載があり心配している。以前質問した際は、ほかの自治体がどのような対策を取っているのか確認し、連携しながら事業を進めると伺った。歩道上を自転車が走ることで歩行者と自転車が接触したり、歩道という死角から自転車が出てきた瞬間に車と接触が起こる等、自歩道は事故を誘発する。そのため国としては、車から見える位置の車道を走ってもらうように、指導している。ネットワーク計画自体は、自転車が安全に車とシェアしながら走行するものだが、いくらエリアを作っても自転車、車、歩行者みんなが安心して利用できなければ意味がない。13歳になっても歩道上を自転車で走らせるのは日本くらいで、その年齢でもずっと歩道上を走っても良いといった形になると、いつまでたっても次の世代になっても同じことが続く。ヨーロッパのように車のドライバーさんが自転車をみながら一緒に走る方が良い。作ってからでは遅いので、ぜひ国が、なぜ歩道から自転車を下ろしたがつているのかを理解していただきつつ、なぜ今自転車道を歩道につくったんだと全国で有名な土地になつては残念なので、進捗を教えてほしい。

事務局 : 国や県など、各道路管理者と相談しながら工事を進めていくと聞いている。担当課に確認し、改めて皆さんに共有したい。

○事務局からの連絡事項

- ・ 3/24 開催 ますだチャリフェス告知
- ・ 来年度の益田市自転車活用推進委員会について
(来年度は計画見直しの年。委員会は 4 回開催予定)

以上、閉会。